

ジュニア賞

限界集落救済チャレンジ

北村 美貴 (高校3年生：神奈川県)

現在、山間部をはじめとする過疎地域での人口減少と高齢化の進展が著しい。「地方創生」が日本政府における重要政策のひとつに掲げられ、多くの自治体が「まちおこし」の方法を模索している。限界集落である小さな村は、メディアに取り上げられることが少なく関東一小さな山梨県丹波山村でも人工1000人に満たず、約570人だ。

このゲームは、人口が少ない村の観光資源を発掘し、魅力ある村として認定するために企画した。気軽に行えるように、スマホのアプリケーションを利用する。ゲーム製作者によって、決められた日本地図上で人口の少ない村を見つける。そして見つけた村に行き、最も独自性のある特徴を写真で撮りアプリに投稿する。その情報を集約する本部は特徴をポイント化する。例えば「村の伝統文化に触れていた場合15ポイント」「その村で一番多い名字を見つけたら10ポイント」「名産品を食べたら5ポイント」など。さらに、プレイヤーの居住する場所から遠い距離の方が比例してポイントが高くなるルールにし、100キロ圏内は1倍、200キロ圏内は2倍とする。総合得点の高い人から順に序列が決定する。ポイントは毎月リセットされ、1ヶ月に1回行う。また1年間このゲームを続けた人の中で、年間で獲得したポイントの総合点を出す。最高点の人が町おこしマスターと認定され、村の特産物1年分を受け取る。

ゲームをきっかけに、観光では訪れない村に関心を持ち調べることにより、集落の現状・課題を見つめて将来の在り方や活性化について考える機会となる。距離に関係なく小さな村に関心を持ち立ち寄ってみたい。小さな村にも、今までの歴史があり人の生活がある。「この村をなくしたくない」という「危機感」が村にあるだろう。ゲームにより村の名前が全国に浸透しただけでなく田舎には素晴らしい価値がある事も理解し、人々が足を運ぶきっかけになれば幸いだ。